

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

第四回公開講座

二十一世紀の健康づくり 地域で支える子どもの健康

昨年九月三日から毎水曜日五回にわたり、平成十五年度大学公開講座（第四回）が開催されました。この度は「子ども」と「地域」をキーワードに、共に皆が連帯し合える地域社会を展望することを主旨に展開されました。

各回の受講者は五十〜五十七名で、アンケートによる受講者の職業は、会社員・公務員、教育、保健・医療・福祉、家事、その他、と全般にわたり、主旨にふさわしい講座となりました。



第一講 九月三日
思春期のセクシャルティとセクシャルヘルス



教授 奥野 晃正

思春期に発達する第二次性徴の様相とホルモン環境について解説した上で、青少年の性行動に関するアンケート調査の結果を提示し、性感染症の予防と避妊が行われていない現状の問題点と性に関する健康教育の重要性について講演された。受講生もそれぞれの立場で経験や意見を述べ、熱心に情報交換がなされた。

第二講 九月十日
学校で出会った子どもたち



講師 吉川 一枝

文部科学省などの調査資料を用いて小・中・高校生の生活や認識について、その実態を説明した上で、校内暴力、いじめ、不登校について、発生状況・推移・きっかけ・原因・動機などについて事例を紹介しながら講演された。心の問題を抱えている子どもたちとどのように関わっていくべきなのか、受講生の心も揺さぶられ、深く考えさせられる講義となった。

第三講 九月十七日
輝いて生きる子どもたち

小児がんの子どもを救えるボランティア活動を、

教授 梶山 祥子

子どもたちの六百人に一人は白血病や脳腫瘍などの小児がんに罹患する可能性がある。近年、治療



率は七十%以上だが、苦しい副作用を伴い、死の転帰をとる子どももいる。子どもたちは辛い治療の中でも、終末期の入院生活の中でも楽しみを見出し、「普通の生活」を願う希望を持ち続けている。この子どもたちと家族を支えるためにできることは何かをともに考える講演となった。

第四講 九月二十四日
安心して子育てができる地域社会に向けて



講師 近藤 明代

不安を抱えながら子育てをしている母親の調査から、子ども・家族・周囲の人々に対する母親の思いが示され、子育てには仲間や地域の人々の参加が不可欠であることが説明された。また、地域の人々はどのように子育てで支援に参加しているのかを、地域の実践を紹介しながら講演された。

第五講 十月一日
子どもの権利条約と子どもの主体性



教授 上野 美代子

子どもはこれまで保護される存在であったが、本条約では子どもを主体的存在として扱っていて意義深いと強調された。ユニセフの資料を用いて子どもの諸権利について概説され、我々おとなが、日常生活の中で出来ることは何かを考える機会となった。

スポーツ大会開催

平成十五年十二月十三日(土)、本学初となるスポーツ大会が行われました。日頃、講義、実習、グループワークなどで忙しく、学年間の交流が少ないという学生の意見により企画されたものです。当日は年末という忙しい時期にもかかわらず教職員含め七十四名の参加者がありました。競技は、七名一組による団体戦でバレーボール、ドッチボール、大縄跳びの三種目による総合得点で争われました。勝敗はともかく、大変ハッスルしたプレーが随所で見られました。総合優勝は、チームひびき(主将 佐藤祐介、新井祐浩、大久保孝洋、郷田佳孝、城石一範、野村直樹、明堂靖史)が果たしました。また、多くの個人表彰もありました。あまり話したことが無かった人と交流できたり、友人の思わぬ



一面が見られたりと大変盛り上がりました。表彰式の後、多くの学生が懇親会へ参加し、学生間の実りある交流が生まれました。最後にスポーツ大会を企画・運営した三浦健太郎君はじめ自治会役員の皆さん、本当にお疲れ様でした。

平成十五年度 看護研究演習発表会



昨年十二月十九日(金)、本学アリーナにて、四年生による看護研究演習(いわゆる卒業論文)ポスター発表会が開催されました。「看護研究演習」は四年生の必修科目で、講師以上の全教員が担当して看護研究課題の指導にあたりました。今年度の研究課題数は、個人研究三十五件、グループ研究三十一件の計六十六件でした。当日は、四月から約九ヶ月にわたる研究の成果を一枚のポスターにまとめ、来場者の質問に答えるポスター発表形式で研究発表が行

われました。アリーナ一面が六十六枚のポスターで埋め尽くされ、次々に訪れる学生や教員による賞賛の声や厳しい質問に一喜一憂する学生の様子は学会風景そのものでした。どの学生の顔にも困難な研究をやりとげた達成感が感じられました。



二〇〇三年九月十六日から九月二十六日までの間、二年生の基礎看護学実習Ⅱが北見赤十字病院にて行われました。この実習は、健康上に問題があるクライアントの生活上の問題を明らかにするために、看護アセスメントを行う目的で実施されます。また、二年生の看護学実習に引き続き、二〇〇三年九月二十九日から三年生の領域別看護学実習が開始されました。この実習は、既習の講義や演習で学んだ理論や知識を実践の場で統合するための科目です。成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ(急性期・慢性期)、老

看護学実習について

人看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神保健看護学実習、地域看護学(在宅看護学)実習の六領域に分かれて、二〇〇四年八月六日まで行われる長期の臨床実習です。実習施設は、北見赤十字病院や置戸赤十字病院、小清水赤十字病院をはじめ、介護老人福祉・保健施設、保育所、精神障害者共同作業所、訪問看護ステーション、保健所等です。そこで、実習で学んだことや感想など、学生の声を紹介したいと思います。

JICA 研修受入

JICA(国際協力事業団)研修員としてキルギス共和国から三名の医師が来学し、「寒冷地における地域医療と保健衛生」について研修をうけました。本学の教員八名が講義と視察見学等を担当しました。まず、八月二十五日午前、本学の松本学長への表敬訪問がなされ、同日の午後にはジョブレポートが行われました。これは研修員の業務と抱える問題点、研修で学びたいこと等を発表し、講師と共通認識を図るためでした。今回の「寒冷地における地域医療と保健衛生」の研修カリキュラムは、四つの大項目から成り立っています。第一は「健康の保持増進」、第二は「生活習慣病を防ぐ」、第三は「地域保健活動」、第四は「日本の社会」です。



研修員三名は講師の皆様のご指導の下、毎日熱心に研修を受けておりました。九月十二日の最後の研修日には、研修で学んだ成果や自国への適応・導入等について披露するアクションプラン発表会がおこなわれました。研修員の発表を聞き、キルギスの保健・医療・看護分野への技術移転と人材育成に些か寄与できたと実感しました。その後、閉講式と送別会が行われ、国際交流の楽しい一時を過ごしました。教職員協力により、有意義な研修員の受け入れが行われたことに感謝します。(国際交流委員会)

教員研修の開催

今日、教育の現場は多様な文化と価値観の錯綜する中、時代の要請に対応した看護人材の教育のあり方を常に模索し続けています。本学は教員の教育力の開発と人間としての研鑽を目的に平成十五年九月九日～十一日の三日間、「看護実践能力とその教育のあり方」についての看護系教員の研修会を開催しました。活発な討議が行われ、改めて日頃の教育に対する研鑽結果がこの機会に集大成され、新たな教育の方向性が見いだされたものと判断しています。

学部教育のカリキュラムの改正

本学は平成十一年に開設され平成十五年三月で学部教育の完成年度を迎えました。その結果、改善事項は明確となりました。同時に、その間看護教育に求める時代の要請も刻々と変化し、看護教育界の教育技術も発展・改善されてきています。これらを踏まえ、本学は現行の教育内容を再検討しカリキュラムを改正しました。新カリキ

ュラムは各看護領域の看護の基礎理論、看護方法論、看護学演習、看護学実習等に精選され、看護実践能力の育成を強化することを目的に編成し平成十六年度入学生より適用することになります。

国際交流のつどい

昨年の十二月八日(月)午後四時二十分から本学の講堂で、国際交流委員会が主催した「国際交流のつどい」が開催されました。今回は、日本赤十字武蔵野短期大学の小原真理子教授を迎え「国際救援活動における看護の役割」現地の人々との協働」をテーマに約一時間講演を行いました。

講演では、ご自身が看護学生の頃から、発展途上国で看護活動を行うことを念願し、十年以上前にICRC赤十字国際委員会の下で看護活動を行った「カンボジア難民医療活動」と「クルド難民医療活動」の難民キャンプでの体験談や、昨年JICA国際協力事業団の看護管理専門家として活動したこと等、看護分野で国際協力活動をする上で重要な現地スタッフと

入試情報

看護学部

推薦入試(定員四十五名)は、昨年十一月十六日日本学で受験生六十九名が小論文と面接を受け五十名の者が合格しました。

一般入試(定員四十五名)は、今年二月七日、本学と札幌会場及び東京会場の三方所で行われ、英語・小論文そして選択科目(数学・化学・生物)の中から一科目計三科目の受験科目に挑みます。

また、センター入試(定員十名)は、英語・国語そして選択科目(数学・化学・生物)の中から一科目の計三科目で本学独自の試験は課しておりません。合格発表は、一般・センター入試とも二月十三日です。

大学院看護学研究科

昨年の九月二十八日に実施しました、大学院看護学研究科の入学試験(定員六名)は、本学を会場として専門領域の試験科目、英語そして面接を受け九名が合格しました。

協働することの大変さと楽しさ、やりがい等を中心にお話されました。

会場に集まった学生、教職員、北見赤十字病院看護師二一五名は、ときおりユーモアを交えながら話される小原教授の話を熱心に聞いておりました。

教職員人事

平成十五年十一月一日付けの教員人事は、次の通りです。

●広域看護学講座
講師 羽原 美奈子

奨学金貸与状況

平成15年12月1日現在、各種奨学金団体等からの奨学金の貸与決定状況は次表のとおりです。

名称	貸与金額	1年生	2年生	3年生	4年生
日本赤十字社北海道支部	年額 60万円	43	46	28	7
	年額 120万円				7
北見赤十字病院修学資金	年額 60万円			13	27
日本赤十字社看護師同友会	月額 2万円	2	1	1	0
北海道看護職員養成修学資金	月額 3.6万円	0	2	0	1
北見市立大学生奨学資金	年額 60万円限度	10			
地方公共団体				5	3
北海道厚生連奨学金	月額 4万円	2	0	0	1
内外学生センターたくぎん奨学金	月額 3万円			0	1
小豆原アカデミー奨学財団奨学金	月額 2.5万円			0	2
日本育英会 1種 自宅通学者	月額5~5.3万円	4	5	3	2
	月額6~6.3万円	8	11	9	7
きほう21プラン	月額 3万円	1	0	2	3
	月額 5万円	10	6	4	13
	月額 8万円	7	6	3	8
	月額 10万円	8	17	14	12
日本赤十字社千葉県支部奨学金	年額 75万円	1		1	
武蔵野赤十字病院奨学金	年額 60万円			1	1

※貸与金額は、平成15年12月1日現在の金額です。

2004年度 前期行事予定

- 4月5日 入学式
- 6日 新入生・在学生ガイダンス
- 7日 前期授業開始
前期履修登録(~16日)
- 30日 臨時休業
- 5月1日 日本赤十字社創立記念日
- 6月25日 臨時休業(午後)
- 26日 大学祭(~27日)
- 28日 臨時休業(午前)
- 7月27日 前期授業終了
- 28日 前期定期試験(~8月3日*4年生を除く)
- 8月4日 夏季休業(~9月14日*4年生を除く)
- 9日 4年生夏季休業(~9月3日)
- 9月6日 4年生前期授業再開

編集後記

本号も学生・教職員の沢山の方々に原稿を担当していただきました。益々充実した内容で編集できましたことを感謝いたします。看護研究演習ポスター発表会は今年で二回目ですが、四年生にとって思い深いものとなるでしょう。看護学実習、新企画のスポーツ大会、新クラブ紹介の記事は、学生の主体性による学園生活を現わしていると思います。また、公開講座、JICA研修受け入れ、国際交流の記事は、国際性、地域性のある本学活動の一面をご紹介します。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第10号

発行日/2004年2月2日

編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

シリーズ

広域看護学講座

講座紹介

◆ 大西章恵 教授

地域看護学を担当していますが、その中で、実際の活動事例などをもとに地域看護のダイナミックさを伝えたいと思っています。

オホーツク地域は地域看護活動が活発に実践されているところです。実習楽しみにして下さい。

◆ 平吹登代子 助教授

常呂川の川端から始まった新緑、大地のエネルギーに推されて湧き立った夏、透明な空気の向うに輝く紅葉、今は夜空の星々が光を強める初冬。ふるさとがこんなに美しかったかとつぶやきぬ。

◆ 羽原美奈子 講師

十一月に着任しました。

さわやかなミントの香り、光りそよぐ街、大学のすばらしい環境に魅せられています。自分も含めて地域で暮らす人々が健康で生き生きと生活するために何が必要か、学生の皆さんと一緒に考えていきたいです。

◆ 近藤明代 講師

何を書こうと考えると、なかなか思い浮かばず、「本当に、毎日何も感じないまま過ごしているんだなあ」とか、「本当に感性が乏しいなあ」とか、改めて自分を振り返ってしまいました。しかし、「感性が乏しく・・・」とも書けず・・・。

◆ 吉谷優子 講師

大阪から北見に来て五年が過ぎようとしています。北見は晴れの目が多く夏も大阪ほど暑くなく、住みよいですね。本の大好きな私には、絵本や児童文学作家の講演会などが多いことも、北見で嬉しいことの一つですね。

◆ 笹原千穂 助手

昨年の春から勤めております。こちらに来る前は札幌市で保健師として働いていました。実習で学生さんと関わることが多いのですが、少しでも地域看護のおもしろさを感じていただけるようにしていきたいと思っています。

◆ 真溪淳子 助手

宮城県出身の私が北海道に来てまる四年。この間に私が身につけた趣味は、「家庭菜園」つまり畑仕事。ジャージに長靴をはいて、じゃがいも、たまねぎ、にんじん、キャベツなど、手作り野菜は抜群においしいですよ。

◆ 宮地普子 助手

学生の皆さんとのかかわりから新たな発見がたくさんあり、臨床での経験を振り返りながら過ごしています。精神看護を考える貴重な機会をいただいているということを実感し、これからも頑張ろうと思っています。



前列左から 近藤講師、大西教授、平吹助教授、吉谷講師
後列左から 宮地助手、真溪助手、羽原講師、笹原助手

クラブ 活動紹介

サッカー部

二〇〇三年四月、私たちはこの度サッカー部を設立しました。全学年を合わせても男子は一割程度と非常に少なく、サッカー経験者も少ない大学ですが、「男の子が少ない大学でも何とかサッカーをしたい」という強い思いが、サッカー部設立に至りました。

大学には立派なグラウンドがあるにも関わらず、それを使う部活がなく、また男子だけが集まってやっているような部活がないということに私たちは注目しました。



も満たないサッカー好きが集まり、なんとか部を設立するために入部希望者を二ヶ月に渡って募り、気づいてみると二十二人にもなっておりました。それは部を設立するために十分な人数でした。そこで私たちは決心したのです。「そろそろ、サッカー部を立ち上げよう」と。

基礎看護学実習日を終えて
今回の実習は、大変だったけれど楽しかったです。先生や指導者の方から助言を受けることで、私は自分で考えることができ、それを一つの援助に結びつけることができました。そのクライエントに何が必要かを考え、計画を立てている時は大変でしたが、次の日の実施は楽しみでクライエントから「ありがとう」という言葉を聞いた時は、とても嬉しくて涙が出そうでした。実習は、私にとって学習する機会を与えてくれ、実際に働いている看護師さんから助言を受けながら経験できる大切



2年生
松永 紗佳さん



3年生
峰 千尋さん

な場だと言えます。終わった後の達成感はとても大きなもので、自分自身で成長できたと感じることができました。

今回学んだことを、今後にどう活かすかは自分だけで、そのことは、私に限らず、みんなそうだと思います。大変な中でも得たことを忘れずに今後に活かしていきたいと思っています。

領域別看護学実習の1クール目を終えて
実習を終えて感じたことは、まず自分が勉強不足だったということ、事前に形態機能学や疾病論の復習をしていなかったため、実際にク

ライエントに会ってから、慌てて必要なことを学び直すことになりました。実習で少しでもクライエントの役に立てることができるよう、前もって自分でできる学習はしていくことが必要でした。また、今回の実習では、先生やグループのみんなに頼りながら、助けてもらったように思います。一人で考えていて行き詰まったことも、先生や同じグループの友達に相談し話し合うことで、少しずつでも解決して進んでいくことができました。

これから実習に行く人たちは、時間が足りず焦ったり何もできない自分が悔しかったりすることがあると思います。でも、一人で抱え込まず周囲の人たちと助け合いながら真剣に取り組んでいけば、必ずいい実習にすることができると思います。お互い頑張らしましょう。